

平成 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	下栗芋ウィルスフリー化芋種育成事業
事業主体 (連絡先)	下栗里の会 (会長 野牧知利) (飯田市上村 1283 番地 Tel0260-36-2562)
事業区分	
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	268,743 円 (うち支援金 : 230,000 円)

事業内容

県により「信州伝統野菜」に選んで戴いた、下栗いもであるが、ウィルスにより収穫量が減少している。そのため、下栗いもの保存と、このいもを地区の地域活性化の核とするため、ウィルスフリーの種芋を栽培することとした。

☆事業内容

信州大学で培養した無菌芋を下栗地区内の圃場を借用し4月中旬に定植を行い、7月の後半に収穫を行った。その結果、ウィルスフリーのいもは従来のいもに比べ格段の収量が期待できることが分かった。また、ウィルス検定の結果も良好であった。今後は、さらにウィルスに汚染されない「いも」を広く生産することが求められる。そのために地区内全体での取り組みが必要であり、地域住民への啓発活動として講演会等も開催した。また成果を周知するために、収穫したいも種は全て試料いもを提供した農家23戸に配布して、その優秀さを実証してもらうこととした。



自己評価 (事業実施率) 【A】

事業効果

- 種いもとして、170 kg 収穫した。
- 信州大学の調査により、慣行栽培の 1.6 倍の増量となることが判明した。
- 23 戸の農家に 7.3 kg ずつ配布、平成 20 年度に栽培することとした。

【目標・ねらい】

- いも増産の実証
- 農家の啓発
- 地域全体での増産の実現

自己評価 (目標達成率) 【C】

今後の取り組み

23戸の農家で栽培されるウィルスフリーいもは、目を見張る成果を上げるであろう事は疑いない。下栗地区の農家の啓発という点では、目的を果たすと思われる。しかし、今後安定的継続的にウィルスのない種芋を供給していかなければ、地域全体での増産は実現しない。このため目標達成評価は「C」である。

しかし最近の信大の研究によれば下栗地区で一斉に種芋を更新すればその効果はかなり続くとのことであり、全体でのいも増産に道が開けた。今後は地区一斉に種芋を更新する事業に取り組まねばならない。

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70～89%「C」50～69%「D」49%以下で示すこと。

下栗いもウィルスフリー化芋種育成事業活動写真



農家での作付け(H20.5/27現在)



ウイルスフリーのいも畑(H20.5/27現在)



慣行栽培のいも畑(H20.5/27現在)